

鯉の便り

日本晴れの日差しがまぶしい。春風にたなびくのは今年で何回目になるだろう。あの子はもうこの家を巣立ったけれど、私はまだ青空を泳いでいる。

はじめて空に身を躍らせた日は、湧き立つ雲が波のように美しかった。あの子は親の手をぎゅっと握りながら、目を大きく開いて私を見上げていた。尾ひれが揺れると満面の笑みを浮かべてくれて、どうか立派に育ってくれよと思ったものだ。

年を追うごとに、小さな身体はどんどん大きくなった。いつしか握っていた手も離して、広い世界へ歩み出していった。親は子どもが大人になってからも「健やかでありますように」と掲げてくれる。だから私は風に届けよう。きっとその願いがかなうように。

2018年 4月



5月

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31



1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

